

年 月 日/

学校 年 組 番 なまえ

2024年6月20日付

「鉄道神社」ご朱印完成

ひたちなか開運鉄道神社のご朱印をPRする三鉄ものがたり実行委員会の佐藤久彰代表「ひたちなか市阿字ヶ浦町



実行委は2021年6月、無事故で引退した縁起の良い気動車「キハ222」を「ご神体とした「ひたちなか開運鉄道神社」を同市阿字ヶ浦町の阿字ヶ浦駅に建立した。建立当初からご朱印を要

ひたちなか海浜鉄道

ひたちなか海浜鉄道湊線（勝田―阿字ヶ浦駅）で、44年間走った車両を「ご神体としたユニークな「鉄道神社」のご朱印が披露目された。湊線を生かしたまちづくりに取り組みひたちなか市の市民団体「三鉄ものがたり実行委員会」（佐藤久彰代表）が企画した。地元の活性化や誘客を目指す。

市民団体 ファン要望応え制作

路線周辺やその近隣の商店街を「仲見世通り」と表す佐藤代表は、「仲見世通りが活性化するイベントや誘客の仕掛けをどんどん企画、実行して地元を盛り上げたい」と新たな展開を見据えている。

（高岡健作）

鉄道神社について、実行委は21年7月、那珂湊駅構内に湊線で使われていた1925年製レールで造った一の鳥居を設置。同駅が「拝殿」、神社のある阿字ヶ浦駅が「本殿」で、その間の路線6・1キロを「参道」と位置付け、今回のご朱印の制作で神社の形を整えた。

佐藤代表は「珍しい鉄道神社のご朱印を多くの人に手に取ってもらいたい」と話し、吉田社長も「ご朱印が新たな観光資源となり、湊線を利用する人が増えれば」と期待した。ご朱印は那珂湊駅で購入でき、1枚400円。

【問1】 鉄道神社のご朱印を作成したねらいは？

地元の活性化や誘客

【問2】 神社のご神体が「キハ222」の車両となっている理由は？

44年間無事故で引退した縁起の良い車両のため

【問3】 神社の一の鳥居は何でできている？

1925年製のレール



よ
読めない文字は、かざくや、ともだちにきいてみてね